

もちろん気まぐれのところもありますが、早朝の「なかよし(預かり保育)」の子どもたちは、朝の作業の手伝いをよくしてくれます。鉄棒や雲梯の下のマット敷き、砂場のシートの片付け、野菜や植木への水遣り、カメや金魚へのエサ……。人手の少ない時にはテントの設置もしてくれました。

5歳のお兄さん・お姉さんだけでなく、時には2、3歳のピンクベッチの子も力を貸してくれます。

共にしながら、その様子を前にして、大人の営みの模倣から始まった取り組みが、自らの行動となり、自分たちの生活の場の作り手…。言わば「生活の主体者であり担い手」となっていく、「自由人へのプロセス」を感じました。

してもらったり、与えられたり、指示されたり…。でするのが少して、自分たちの中から生まれてくる…。のは素敵です！

遠い昔、担任をしていた頃のことを思い出しました。

給食を食べ終ると「ごちそうさま」まで、思いおもひに自由画帳に絵を描いたり、棚から絵本を持ってきて眺めたりします。私もいっしょに絵を楽しんだり、周りの子どもたちのやりとりをし、ごちそうさまの後は、思いついて始めた「昼の劇場」…。

終えてクラスの部屋に戻っていくと、そうじや片付けができていて円になってゲームをしたり、わらべうたで遊んだり…。と、午後の集まりをして待っててくれます。

経験してきたことを材料にして、子どもたちは自分たちで力を出し合い、いろいろ工夫し、生活を作っていくんだな！と、思いました。そして、帰りの集まりでは、「こんなことしたよ」の報告会を持つことも多い。よさこびと自信の笑顔は、次の日の誰かの取り組みにもつながっていくのでした。

今、子どもたちの声でアナウンスが入り、一日の終わりの遊びの片付けがうれしそうに行われています。

これからさらには…コロナでやれなかったことが増えたままになっていたと…。例えば、給食の配膳や盛りつけや、おかわり…。などをはじめ自分たちでやっていけることを再開することで、新たな子どもたち自身による生活づくりがふくらんでいくことでしょう。

私たちはできるだけ邪魔することなく見守り、相談にのったり、子どもたちの思いや声に寄り添い、必要を最小限の手助けをし、何をしたらいいのか自分のすることが見つからない子には、そっとお願いの声かけしながら…。自分たちで生活をつむいでいくよさこびをいっはいい体験して、すがすがしい秋を過ごしてほしいと思っています。